

平成 28 年度

第 3 回 八代市地域公共交通会議 会議録

平成 29 年 1 月 31 日作成

八代市地域公共交通会議 会長 永原 辰秋

【日 時】 平成 29 年 1 月 24 日（月） 14 時 00 分～15 時 20 分

【場 所】 八代市鏡支所 3 階 大会議室

【出 席 者】 23 名 (敬称略)

区分	団体・役職	氏名
会長	八代市 副市長	永原 辰秋
委員	産交バス（株）八代営業所長	坂田 秀貴
委員	（一社）熊本県バス協会 専務理事	冨田 廣志
委員	（一社）熊本県タクシー協会 専務理事	吉田 光義
委員	八代市タクシー協会 会長	神園 喜八郎
委員	八代市身体障害者福祉協議会 会長	渡瀬 隆
委員	八代市地域婦人会連絡協議会 会長	堀田 陽子
委員	八代市老人クラブ連合会 会長	米田 常男
委員	八代地域 代表	徳田 武治
委員	坂本地域 代表	谷口 信吾
委員	千丁地域 代表	上 五雄
委員	鏡地域 代表	岡田 敏夫
委員	東陽地域 代表	後村 新一
委員	泉 地域 代表	竹村 博文
委員	九州運輸局 熊本運輸支局 首席運輸企画専門官（企画調整担当）	小原 勝
委員	九州運輸局 熊本運輸支局 首席運輸企画専門官（輸送・監査担当）	田上 英昭
委員	熊本県県南広域本部 維持管理課長	澤田 誠一
委員	八代市 建設部 土木課長	松本 浩二
委員	八代警察署 交通第一課長	松永 康裕
委員	氷川警察署 地域交通課長	磯崎 将志
委員	八代校長会 八代小学校 校長	淵上 一博
委員	熊本県交通政策課 審議員	前田 隆
委員	八代市 企画振興部長	福永 知規

【オブザーバー】 1 名 (敬称略)

団体・役職	氏名
九州運輸局 交通企画課長	前川 翔

【欠 席 者】 5 名 (敬称略)

区分	団体・役職	氏名
委員	（株）麻生交通 代表取締役	麻生 伸一
委員	全九州産業交通労働組合 書記長	貢 博之
委員	国土交通省九州地方整備局 熊本河川国道事務所 八代維持出張所 所長	長野 秀隆
委員	熊本県立大学 環境共生学部 居住環境学科 准教授	柴田 祐
委員	氷川町 総務課長	陳野 信次

【事務局】	企画振興部	次長	丸山 平之
	企画振興部	政策調整審議員	稲本 俊一
	企画政策課	課長	野々口 正治
	企画政策課	主幹兼課長補佐	田中 孝
	企画政策課	企画係長	秋田 大助
	企画政策課	主任	市村 誠治
	企画政策課	主査	篠原 秀和

【議題及び資料】

◆協議事項

1. 八代市地域公共交通再編実施計画（素案）の調整状況について
2. 八代市モビリティ・マネジメント推進事業について
 - ① 実施状況について
 - ② 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

◆報告事項

1. 集落サポートプロジェクト事業の実施状況について

◆その他

【公開状況】 公 開

【傍聴者数】 0名

【所 管 課】 企画政策課 企画係 （直通：33-4104）

【発言要旨】

◆協議事項

1. 八代市地域公共交通再編実施計画（素案）の調整状況について
 - ① 各路線の再編内容について
 - ② 運賃の見直しについて
 - ③ 八代市地域公共交通網形成計画（計画期間等）の変更について
 - ④ その他

①～④の内容について、以前に説明した内容からの変更点や新たに調整が進んだ内容について説明が行われた。

引き続き、各関係機関と調整を進め、3月下旬に承認を受けた後、国土交通省へ認定申請を行う予定となっている。

詳細については、まだ、調整中の内容であるため、割愛させていただきます。

<質問・意見>

- A 委員：大門瀬線の再編に伴い、バス路線を短縮した区間に、乗合タクシー（日奈久から坂本駅までの区間）を新設するのは、

現在運行されている乗合タクシーとは重複する部分があるが独立した路線と考えてよいでしょうか。

事務局：予約制の区域運行という形で、独立した路線として考えています。

B 委員：今回の再編で市の財政を圧迫するようなことはなりませんか？

利用者も考えているようには増えないのではないのでしょうか？

事務局：再編後の市の財政負担の試算は、利用者を現在の利用者数で算出しております。

利用者数が現状のままでも、負担が増加しないように路線バスの運行距離を削減しつつ、運賃の見直し等、利用者の増加につながるような内容を盛り込んでいます。

少しでも利用者を増加させていけるよう努力していきたいと考えております。

C 委員：運賃の見直しについて、乗換えた場合はどうなるのでしょうか？

事務局：乗車 1 回ごとの運賃として考えているので、乗り換えた場合には、それぞれの乗車の運賃を足し合わせた金額となります。

会長：今回は、財政負担を減らすことが目的とした路線の再編ではありません。

財政負担を減らすことを目的にしてしまうと、サービスの水準を下げる方向で検討が進んでしまうため、利便性が低下し、今まで以上に利用者の減少を加速させてしまいます。今回は、財政負担を抑えながら、サービスを向上させることで利用者を増やし、収入を増やしていくことで、財政負担を減らしていきたいと考えております。

2. 八代市モビリティ・マネジメント推進事業について

① 実施状況について

② 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

説明内容については、議事説明（P1～P2）及び資料 6 のとおり。

<質問・意見>

C 委員：現在検討中の再編の内容など、利用しやすい内容を検討されていると思いますが、免許返納を考えておられる方の中には、これから先の移動手段を考えると免許返納できないという方がおられるので、なるべく維持していけるように今後がんばってほしい。

八代警察署：免許返納の話題が出たので、その状況について説明させていただきます。

平成 27 年度中に運転免許を返された方は 1 年間で 209 人、平成 28 年は、マスコミ等の報道もあり、250 人に増加。まだまだ官民の支援少ない状況だが、産交バスでは手続きを行うことで運賃を半額にさせていただける割引があります。その他、地区の交通安全協会では会員を対象に反射材などの配布を行っておられます。

今後、団塊の世代の方々が後期高齢者になられます。また、3 月には道交法の改正が行われる予定です。75 歳以上の免許更新が難しくなるので、再編計画の策定においても参考にさせていただきたいと考えております。

A 委員：八代市の乗合タクシーについても半額の割引があったと思いますが、現在どうなっているのかお聞かせください。

事務局：八代市の乗合タクシーでも産交バスと同様に、半額の割引を行っています。乗合タクシーを利用される際に、警察署で発行される「運転経歴証明書」（発行に 1,000 円必要。）もしくは、免許返納を証明する書類と顔写真を企画政策課に持参いただき発行する「免許返納者割引乗車証」を提示することで、運賃の半額割引が適用されます。

D 委員：この会議とは、直接関係ありません。個人的な考えになりますが、高齢者の事故が多くなっているのは、高齢者が普段は運転をせず、たまに運転をするので操作の誤りがおおくなっているのではないかと。免許を返納させるのとは逆に、毎日 10 分ずつでも運転をさせるようにした方が事故を減らせるのではないかと考えています。

八代警察署：運転の技術等には個人差がありますので、ご家族など、近くにおられる方に、当事者の様子をよく見ておいていただければと考えております。

会長：本題に戻らせていただき、事業評価について承認をいただきたいと思えます。ほかに意見等ございませんでしょうか。なければ、資料のとおり、提出してよろしいでしょうか。

全委員：承認

◆報告事項

1. 集落サポートプロジェクト事業の実施状況について

説明内容については、議事説明（P3）のとおり。

<質問・意見>

会長：一般のタクシーを使った移動ニーズの調査を行っているということですが、具体的には、どのようなことを行っているのか、もう少し具体的に説明いただけますでしょうか。

事務局：五家荘地域の住民が、直接タクシーを呼ぶのではなく、五家荘地域振興会という地域の組織がとりまとめる形で、同

じ方向にいく住民をとりまとめ、同じタクシーに数人が乗り合わせる形で、最寄のバス停まで行ってもらう仕組みで運行しています。調査のために運行しているので、現時点では運賃は無料となっています。

会 長：今、説明があったような形で、地域の方々がどの方面に移動し、また、どれくらいの人が利用するのかなどを調査しているということですが、皆様からご意見、ご質問等なかったでしょうか。

会 長：本日は、実施状況の報告ということですので、また、次回の会議などで、その後の状況、結果などご報告いただきたいと思います。

◆その他

●オブザーバー（九州運輸局 交通企画課 前川課長から一言）

現在、再編実施計画を策定中であり、今回も修正について説明があっておりましたが、地域からもいろいろな質問が出ていたように、まだまだ地域に浸透しきれていない部分があるように感じました。

再編実施計画は、認定を受けたら 3 年間は実施していただくこととなりますので、実施してすぐに変更しなければいけないようなことがないように、調整を進めていってほしい。

運賃の見直しについて、京丹後市の事例も出ていましたが、京丹後市は、平均運賃が 400 円、一番遠いところは 1,300 円かかっていたところを 200 円にするという取り組みであったようです。

利用者が倍ぐらいに増えなければ、運賃収入は減収となる取り組みでしたが、結果的には、利用者が 2 倍以上になったという事例になっています。

取り組みを成功させるためには、地域も含め、それぞれ関わる人達が当事者意識を持ってもらう必要があると思うので、地域の人達にも、地域の公共交通が使える形になっているのか見ていただいて、しっかり固めていっていただければと思います。

高齢運転の話も出ておりましたが、富山、新潟などでは、おでかけを促進することで健康につなげていくという取り組みが行われており、試算ベースではありますが、自治体の医療費の削減につながっていくという事例もあります。

地域、利用者の視点から、おでかけを促進する意味で、公共交通を使った買い物やコミュニティの維持促進につながる提案が出てきてもおもしろいと思います。

初めて、八代市の地域公共交通会議に参加させていただいたが、地域の方の意見が活発である印象を受けましたので、地域の方からの提案が出てくることによって、事業者、行政、地域の 3 者の協力により、おもしろい仕組みがつくっていただけるのではないかと思います。

●事務局

次回の会議は3月下旬に予定しております。

皆様からいただいた意見を踏まえ、最終的な再編実施計画の案を協議いただきたいと考えております。